

4 年下

ごんぎつね

東京学芸大学附属小金井小学校 大村 幸子

単元の特徴（特色）とねらい

本単元「ごんぎつね」は、いたづらを後悔し、必死に償いをするごんの心情を、兵十とのかかわりの中で描いた作品である。本単元では、場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちの変化を、複数の場面の叙述を関係付けたり、情景描写から想像したりしながら読み取る力の育成を目指す。また、登場人物について考えたことや感じたことを交流することを通して、一人ひとりの感じ方の違いに気づかせたり、気持ちを表す語彙の拡充を図ったりすることもねらっていきたい。

ICT の活用について

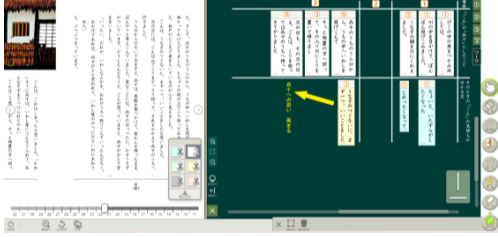
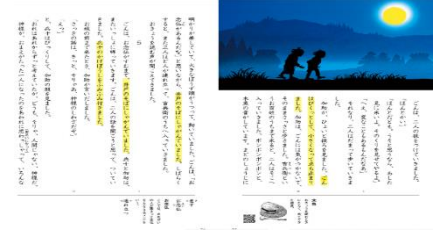
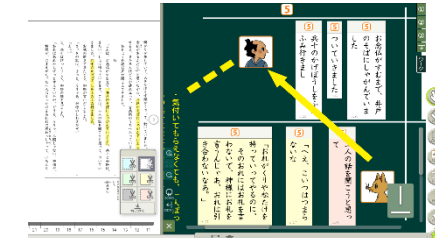
デジタル教科書の「マイ黑板」内のワークに掲載されている表や色別の「ふせん」、矢印を活用して、ごんの心情の変化や兵十との関係の変化を視覚的に捉えさせるようにする。

指導計画例（全 9 時間）

次	時	主な学習活動	指導者用デジタル教科書の活用例
一	1～2	<p>学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名、P11 のリード文、写真から物語を想像する。 ・全文を読んだり、挿絵を並び替えたりして、作品の全体像を捉える。 ・「登場人物の気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう」という学習課題を設定して、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなぶ」の「ワーク」に掲載されている写真や説明を見る。 ・「きく」で朗読を再生する。 ・挿絵を並び替えながら、物語の流れをつかませる。 
二	3～7★	<p>教材文を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごん」の行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、「ごん」の性格や境遇、気持ちを考えて、ノートに書く。 ・場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を考え、心情曲線に表す。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・各自がノートにまとめたことを整理して、「マイ黑板」に、ごんが兵十にしたことと、兵十に対する気持ちが分かる文を書き抜く。 ・各自の読みを共有しながら、兵十への思いの高まりを矢印を用いて表したり、「ふせん」の色を変えたりして表す。
三	8～9	<ul style="list-style-type: none"> ・読んで分かったことをもとに、登場人物の気持ちの変化や人物像について、自分の考えをノートにまとめる。 ・考えたことをグループで交流し合い、友達の考えと比べながら、自分の考えを深める。 ・学習を振り返る。 	

★5 時の指導案

【本時のめあて】 兵十と加助についていづんの心情を読み取る。

<p>◇学習活動・指導上の留意点 ◆ICT・デジタル教科書の活用場面</p>	<p>◆児童の反応 □先生の感想</p>
<p><u>導入：本時のめあての確認する</u></p> <p>◇前時までの読み取りを想起しながら、本時のめあて「兵十と加助についていづんの気持ちを読み取ろう」を確認する。</p> <p>◆前時までの「マイ黒板」を振り返る。本時は続きを考えていくことを確認する。</p> <p>◆本時で学習する場面の教材文をデジタル教科書で確認する。</p>	 <p>◆前時の「マイ黒板」と教科書本文を見ることで、本時のめあてや場面を確認しやすい。</p> <p>□これまでの学びと本文の内容を全体で確認することができるので、本時の導入がスムーズである。</p>
<p><u>展開(1)：ごんの行動から気持ちを読み取る。</u></p> <p>◇ごんの気持ちがわかる叙述にサイドラインを引く。</p> <p>◆サイドラインを引いた叙述を発表させる。教師は発表された部分をデジタル教科書で確認し、「マイ黒板」に抜き出す。</p> <p><u>展開(2)：ごんの気持ちの変化を読み取る。</u></p> <p>◇ノートにごんのしたことと気持ちを書き出す。上段にしたこと、下段に気持ちをまとめながら、気持ちの変化や兵十との関係性について考える。</p> <p>◆考えたことを発表させながら、デジタル教科書の「マイ黒板」に、本文を抜き出したり、ごんの兵十に対する気持ちを「ふせん」の色で表したり、矢印を用いて表したりする。</p>	 <p>◆自分の教科書と教師が示す「デジタル教科書」を見比べながら、どこにサイドラインを引いたかを確認する。引いていなかった箇所には、サイドラインを書き足す姿が見られた。</p> <p>□気持ちを読み取る上で、根拠となる叙述には、行動や会話、情景描写などがあることを、本文を示しながら確認することができる。</p>  <p>◆教師がまとめたデジタル教科書の「マイ黒板」は、「ふせん」の色を変えたり、矢印を用いたりすることができるため、気持ちの変化が視覚的に捉えやすくなったようである。</p> <p>□気持ちの変化を視覚的に表すことができるので、捉えさせやすい。例えば、兵十に対して、何とか仲良くなりたいという強い思いの場合には、「ふせん」の色をピンクに、気づいてもらえなくても近くにいたいという思いの場合には、黄色というように、イメージをもって色を使い分けることができる。</p>
<p><u>まとめ：学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</u></p>	